

# 市長コラム



## 中部は一つ

倉吉市長 石田耕太郎

最近、改めて「中部は一つ」という言葉を聞く機会が多くなつたように感じています。

わが倉吉市の人口が約5万人、中部1市4町でも11万人弱、東部地区、西部地区の約24万人と比べると、規模が小さいことは否定できません。

こうした現状を踏まえると、今後の地域間競争に勝ち抜いていくためには、少なくとも中部全体の力を結集していくことが必要なことは共通認識していただけだろうと思います。

その一方で、いわゆる平成の大合併についてはさまざまな評価があるのも事実です。しかし、合併だけが「中部は一つ」の選択肢ではありません。連携のやり方にはいろいろ工夫ができるわけで、いろいろ知恵を出し合い一体的な取り組みを進めたいと思っています。この中部地域の現状をみると、若者の定住、その基盤となる産

業の振興と雇用の場の確保、子育て環境や医療福祉体制の整備、環境問題への対応、道路網などの基盤整備など、多くの課題を抱えています。

これらはいずれも広域的な対応が求められる課題でもありません。既に、観光や農工商連携など、商工会議所やJA、NPO法人、鳥取中部ふるさと広域連合などが連携し、さまざまな取り組みが始められています。

先般、交通の結節点であるJR倉吉駅も新しく生まれ変わりました。北条湯原道路も見通しがついてきました。昨年ロケが行われた韓国ドラマ「アテナ」の韓国での放送も始まり、国際観光への期待も高まってきました。地域の活性化につながる芽がたくさん生まれてきています。岡山県の真庭地域との連携も図りながら、元気な鳥取県中部をつくるため、今こそ1市4町の力を結集して、「中部は一つ」の取り組みを進めていきたいと考えています。



## チヨンウォル(正月) テポルム(大十五夜)

今年も、平年と比べて雪が多いですね。大雪は心配ですが、雪が多い年は豊作になると聞きました。農業が基幹産業だった昔は、時期と季節、自然現象を見極めるのが重要で、それに伴い多くの行事がありました。

十五夜や満月をボルム、正月(チヨンウォル)の十五夜(旧暦1月15日、今年2月17日)は、前にテ(大)がついてテボルムといい、1年のうち最も大事な十五夜です。月は、西洋ではオオカミ男など、不吉なイメージがありますが、陰陽の思想と農業を重んじた東アジアでは、月は女や大地

と同じく陰で、生命と生産を表す、豊かさの象徴です。

テポルムの日の朝は、クルミや栗、落花生など硬い果実を食べます。これを「プロムケダ」といい、昔はこれで1年間、できものや腫れものがないと信じられていました。

その後、薬飯(ヤツパン)を食べます。もち米に、栗、ナツメ、ハチミツ、ゴマ油、醤油などをいれ蒸したもので、おこわのような食感です。地域によつては、五穀飯や赤飯などを食べるところもあり、ナムル(山菜の和え物)と一緒に食べるのが定番です。これを家畜の牛にも食べさせ、ご飯を先に食べると豊作、ナムルだと凶作と占つたそうです。

そして、この日出会う人に、「ネ ドウィサラ! (私の夏バテ、買って)」と声をかけます。

今年も、平年と比べて雪が多いですね。大雪は心配ですが、雪が多い年は豊作になると聞きました。農業が基幹産業だった昔は、時期と季節、自然現象を見極めるのが重要で、それに伴い多くの行事がありました。

チームに分かれ、雄と雌の綱を作り、結びつけて行う綱引きをします。雌綱が勝つと豊作で、これも雌の生産力にあやかるうとしたためだと思えます。

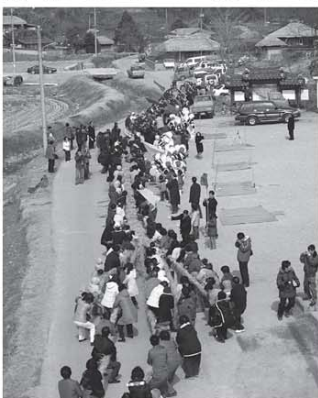
夜になると小高いところに登り、月見をしながら一年の幸運を祈ります。また、たこ揚げもします。一年の不運なものが飛んでいくように、たこ油などをいれ蒸したもので、この糸に火をつけた炭をつけ、時間が経つと糸が切れるよう

正月の十五夜を最後に、次の冬が訪れるまでたこ揚げをしないのが、本来の風習でした。今年も、誰に私の夏バテを売りましようか?

今年も、平年と比べて雪が多いですね。大雪は心配ですが、雪が多い年は豊作になると聞きました。農業が基幹産業だった昔は、時期と季節、自然現象を見極めるのが重要で、それに伴い多くの行事がありました。

今年も、平年と比べて雪が多いですね。大雪は心配ですが、雪が多い年は豊作になると聞きました。農業が基幹産業だった昔は、時期と季節、自然現象を見極めるのが重要で、それに伴い多くの行事がありました。

●今月の一言●  
ネ ドウィサラ!  
「私の夏バテ、買って!」



▲正月十五夜の日の綱引き



# まちがど ピンナッツ

～年末年始にかけて記録的な大雪～

## 豪雪被害

12月31日(金)～

昨年のおおみそかに山陰地方を襲った豪雪により、市内でも倒木や、農業用ビニールハウスの倒壊などの被害がありました。

また、大雪警報が発令された1月16日(日)の雪でも、同様に農業用ビニールハウスの倒壊などの被害が報告されました。

※写真は雪の重さによって倒れた桜の木(法華寺畑遺跡)



～心も新たに武道に精進します～

## 武道館鏡開き式

1月9日(日)

吐く息が真っ白になる寒い朝、市営武道館で鏡開き式が行われました。式では、剣道・柔道など各武道を学ぶ人たちが、今年も精進することを誓い合いました。

また、武道館剣道場の床改修工事の完了に伴い、改修記念式も行われました。この床は、県内産の杉材を使用しており、剣道場には新年にふさわしい新しい木の香りが立ち込めていました。式の後、生徒たちは、新しい床の感触を確かめながら、早速、熱の入った稽古を行い、武道館に大きな変え声が響いていました。

～今年1年の無火災を願って～

## 平成23年倉吉市消防出初式

1月9日(日)

消防団員(全16分団571人)の士気の高揚と、「安心・安全のまち倉吉」の推進に努めていく決意を新たにするため、天神川河川敷(東巖城町)で、今年も消防出初式が開催されました。地域住民にとって消防団は、生命と身体、財産を守ってくれる一番身近な消防機関です。厳しい寒さの中、分団長の号令に、一糸乱れず機敏に反応する団員の姿は頼もしく、横一列での一斉放水は大迫力で、見る人を圧倒していました。



～伝統と歴史あるお祝い行事～  
**西郷小学校開校式**

1月14日(金)

今年の4月に、西郷小学校に入学する新入生48人が、<sup>むしろ</sup>庭の上に座り、在校生や先生、地域の人たちなどから、たくさんのお祝いの言葉を受けました。校長先生などから、紅白まんじゅうなどの記念品が一人ひとりに手渡された後、在校生による歓迎の催しが行われました。真剣な眼差しで、お兄さんやお姉さんの歌や劇に見入る新入生。誓いの言葉では「1年生になったら一所懸命勉強します」と、大きな声が体育館に響き渡りました。



～県中部の発展に向けて～

**市道倉吉駅南北線開通式・JR倉吉駅竣工式**

1月15日(土)

中部の玄関口、JR倉吉駅が新しく生まれ変わりました。式では、上井保育園の園児による歌と踊りが披露されるなど、関係者や来賓など約80人が参加して、新しい倉吉駅の完成を祝いました。新しい駅には、南口と北口があり、駅内を歩いて反対側に渡ることができるほか、改札口のある2階へは、エレベーターやエスカレーターで上がることができるなど、バリアフリーを意識した施設となっています。

～保育園に太陽光発電設備がやってきた～

**そらべあ発電所(太陽光発電設備)寄贈記念式典**

1月17日(月)

NPO法人そらべあ基金から上井保育園へ太陽光発電設備が寄贈されました。そらべあ基金の岩間理事は「そらべあ発電所は地球に優しい設備です。皆さんも環境に優しいことを、家でできることから始めてください」と園児に伝えました。マスコットは、温暖化の影響でお母さんグマと離ればなれになったホッキョクグマの兄弟「そら」と「べあ」。園児たちはお礼に、「みんなで地球を守っていきます」と「そら」と「べあ」が笑顔になるように大きな声で歌いました。



～10年後の倉吉市を考える～

**第1回倉吉市総合計画審議会を開催しました**

1月21日(金)

市民の皆さんの意見などをもとに作成された第11次倉吉市総合計画(案)を審議する審議会が、倉吉交流プラザで開催されました。

審議会では、石田市長が有識者など30人で構成される審議会委員へ、総合計画(案)についての意見を求めました。委員は、各専門部会(産業振興・福祉教育文化・建設環境)と総合部会に分かれて原案についての審議を行いました。





# キラ★リ

No.57

新成人代表  
(鳥取短期大学)  
こんどう はな  
**近藤 華** さん



## ★最近の話題

鳥取短期大学の食物栄養専攻に所属しています。栄養バランスのとれた献立を考えたり、調理実習では中国料理やフランス料理など、日本料理以外の料理も作ったりしています。ソフトボール部に所属していましたが、昨年で引退となりました。自由な時間が増えたので、とても充実しています。

## ★趣味は？

子どもと遊ぶことです。小さい子が大好きなので、親戚の子が家に来たり、街で小さい子を見かけたりするとつい一緒になって遊んでしまいます。将来は保育士も素敵だな～なんて思います。

## ★今後の目標

春からは社会人です。自分のことは自分で、責任を持って行動できるようになりたいです。

プロフィール:平成2年生まれ/しし座/血液型O型



## 作って！簡単！離乳食作り

母乳やミルクだけで栄養を摂っていた赤ちゃん。離乳食が始まり、初期から中期へと進むと、「作り方はどうすればいい？」「舌でつぶれる固さは？」という質問をよく聞きます。そこで、栄養士の話の聞いたり、実際に中期の離乳食を作ってみませんか？

**と き**：2月16日(水)午前10時～正午

**と ころ**：子育て総合支援センター「おひさま」

**対 象**：離乳食を始めた乳児とその保護者(25組)

**講 師**：子ども家庭課 栄養士

**持ってくる物**：エプロン、三角巾、お茶、おしぼり

**申込期限**：2月12日(土)

**問** 子育て総合支援センター「おひさま」(TEL/FAX 22-3914)

# 鳥取短期大学

キャンパス 181



**まもなく新園舎が完成します**  
鳥取短期大学 附属幼稚園は、待ちに待った新園舎が、今月完成します。園児たちは、2階建てになることに興味があるようで、「高いところはどんな景色がみられるのかな」「階段はどんな遊びができるのかな」と、胸を膨らませています。年長組は、卒園式までのわずかな間ですが、園児たち

は、新しい幼稚園で過ごせることを楽しみにしています。園児・保護者・先生だけでなく、大学関係者も新園舎に期待を寄せています。幼児教育保育学科では、実習先としてだけでなく、今後は「絵本の読み聞かせ」などのボランティア、園児・保護者との「子育て」交流の機会などが一段と増えるでしょう。また、他学科・専攻の学生

も授業の体験を生かした「食育」、「語学教育」など今まで以上に多岐にわたる「試み」に挑戦して、一緒に園児の成長を見守ることになるでしょう。創立40周年を機に、保育所機能も備えた「認定こども園(幼稚園型)」の設置を県に申請中で、4月からは1歳児も受け入れる予定です。外観は、短大の校舎デザインを継承した赤瓦屋根と白壁が周辺の景観に溶け込み、内部は木をふんだんに使用した

温かみのある雰囲気、豊かな自然との一体感をもたせた空間となっています。広さは以前の2倍となり、園児がのびのび動けるスペースを確保してあります。中嶋邦彦園長は、「豊かな自然に恵まれたところで、親も共に学び、親と地域、園が協力して共に子どもを育てていきたい。短大と連携した保育・教育を行いたい」と話しています。

- 倉吉市の人口(基本台帳)  
23,945人(← 6)男  
26,679人(← 12)女  
50,624人(← 18)計  
20,431世帯(← 10)
- 外国人登録者数  
84人(← 3)男  
183人(← 2)女  
267人(← 5)計  
225世帯(← 4)  
(H22.12.31現在)

### 編集後記

■小豆が好き。茹でただけでもイケるが、何といっても母親が作るあんこは絶品。おはぎやおしるこなどであんこが活躍するこの時期、多めに作ってもらって、少しずつ食べるのが幸せ。しかし、争奪戦は激しく、すぐに冷蔵庫から消えてしまう。次に作ってくれるのはいつだろう…(Y.T)  
■1月のある朝、雪が多くて車が家から出られない。雪と一緒に汗をかく。なんとか出て少し進むと、近所の人が道の雪までかいている。手伝う時間もなく申し訳ない気持ちでそこを通る。そんな自分を、その人は笑顔で見送ってくれた。いつか何かでお返しをしなくてはと思った。(A.T)

